アカシア通信

Vol.32 （2023年 7月26日）

編集;アカシア通信 編集委員会
発行;医療法人財団アカシア会
連絡先;アカシア会本部 048-950-7207

チャリティーコンサート "集う

令和5年5月13日(土)三郷市文化会館大ホールにて、障がい者福祉団体支援チャリティーコンサートが行われました。

当日の来場者は総勢384名が参加し、第1部では均整の取れた合唱や魅惑のフラダンス、洗練されたヘルマンハープなど地域で活動する方々の舞台から始まり、第2部では良質なピアノや朗読など素晴らしい音楽を堪能しました。楽しい日常が少しずつ取り戻せてきた実感を持てた日でもありました。

会場フロアでは職員、当事者が皆様へ募金の声掛けお願いをし、163,316円と多くの募金が集まりました。障がい者団体(きょうされん)や三郷市社会福祉協議会等へ寄付をさせて頂き、皆様の厚意が地域の方々へ役立つことになっています。

また、準備から後片付け、ポスターの貼りだしから撤去までも出演者やそのご家族までが、関わって頂いている事に大変感謝すると共に地域で支えられているチャリティーコンサートは、今後も大切にしていきたいと感じました。本当にありがとうございました。

大場理事長
挨 拶

＜多くの方々から感想や意見等がアンケート(115人)として寄せられました＞

- ハワイアンは楽しかった。アンサンブル「リンのね」は、音が優しいのでもっと演奏者が多かったらよかった。
- 一体感がでるため会場全体で唄える歌もいいのではないでしょうか。
- 毎年、楽しみにしています。ハープの音色は心を癒します。指が悪いので弾けない分しっかり音色を聞き心の浄化になりました。
- とても楽しい時間でした。音楽がもたらす沢山の可能性を感じることができました。
- 久し振りのコンサート、とてもよかった。ハープのひまわりの曲は心に浸みました。迫力あるピアノ演奏、見事な絵手紙、朗読、ピアノ演奏、とても感動しました。
- コロナ禍で、どこにも行かず、やっと本日、チャリティーコンサートを聴きに来ることができました。娘が「みどりの風」(社会福祉法人緑の風福祉会)にお世話になっていて、みどりの風を支える活動を日々行っています。私たちもこの様なコンサートが開けたらいいなと思いながら聴かせて頂きました。

事業所　あれこれ　パート１

初給料でバッグを買いました

障がい者就労移行支援事業所ラ･ポルタを卒業し、令和 3 年 1 月から千葉県柏市にある特例子会社*で働いている**風間彩花(ｶｻﾞﾏ ｱﾔｶ)さん**に、お話を聞きました。

風間さんは、三郷特別支援学校高等部を卒業しラ･ポルタに通所されていました。いつも元気で明るい 23 歳の女の子です。おしゃべりが大好きで、みんなを和やかにする方です。

この会社では、4 名のラ･ポルタ卒業生が働いていますが、風間さんは材料チームに所属しています。

＊特例子会社とは：障がいのある方の雇用促進、安定を図るために設立された会社

●どのようなお仕事をしていますか？

牛乳パックを洗ったり、パックのビニール部分を剥がして出てくるパルプをちぎったりしています。いつか、自分が作った材料を紙漉き用の材料にするためにミキサーにかける作業もしてみたいです。

紙すきをする第一段階目の、紙を細かくちぎる作業の様子

●お仕事をしていて楽しいことはどんなことですか？

１つの作業をやり終えると嬉しいと思います。

※休憩時間にメンバー同士でおしゃべりをすることです。

●お仕事をしていて大変なことはどんなことですか？

立ちっぱなしの作業になると、疲れてしまいます。でもその時は頑張っています。

●お給料は何に使っていますか？

お金の管理が上手ではないので、母が預かってくれています。ですが、お酒やおつまみ、メイク道具やポーチを買ったりしています。

●初めてのお給料では何を買いましたか？

バッグを買いました。

作られた紙は、名刺や賞状、メッセージカードに加工され、社内外で活用されています

●お休みの日は何をして過ごしていますか？

土曜日はお友達と遊びに行ったり、祖父母の家に行ったりしています。最近、障がい者のグループホームのショートステイを利用してみたので、週末グループホームに行くこともこれからあると思います。

●家のお手伝いをしていますか？

自分のお弁当箱や水筒を洗ったり、夕食後の食器洗いをしたりしています。

週１回程度、自分のお弁当を作ったりしています。

インタビュー：就労移行支援事業所　ラ･ポルタ　小川里沙

事業所　あれこれ　パート２

いろいろ挑戦したいね　認知症高齢者グループホーム　ファンハウス

2022 年 10 月に入居された**荻野矩子(ｵｷﾞﾉ ﾉﾘｺ)さん**。ご自分のことはほとんどご自分でされます。
家事も行いながら、自分のペースで生活されています。畑作業には積極的に（いつの間にか勝手に･･･）参加してくれています。明るい性格でとってもポジティブな生き方！
職員は常に見習いたいと思っています。

■ファンハウスの住み心地はどうですか？　それは、どうしてそう思うのですか？
何の不自由も感じてませんよ。何でも自由だからかなぁ？

■どんな時、楽しいですか？　つまらない事はありますか？
自分でやりたいって思うことを挑戦できるので、自分でやりたいことをやっている時が楽しいかも知れない。つまらないってことは特にないかな。

■ファンハウスに入所する前で、楽しかったことを教えてください。また、辛いと思ったことがありますか？
今までも自由にやっていたから（入居前は別のグループホームにいたが）、今と変わらないけど、そりゃ家にいれたら一番良かったわよね～。

■ご家族と別で暮らすことに寂しいと感じることはありませんか？
たまに会えるし、寂しいとは感じないよ。むしろ一緒にいたら喧嘩ばかりになっちゃうから、今の距離間が丁度良いのかもね。

■食事づくりや畑仕事に参加していますか？

参加していますよ。楽しいし、やりたいのよね。でももっと季節物とかを畑に植えて新鮮な野菜を食べたいとは思います。

■これからの望や夢などは何ですか？
色々な作物を植えたり、収穫したり挑戦したいわね。もう少し広い畑があればもっと色々できるのに（笑）

♡終始笑顔で応じてくださった荻野さん。これからも調理に畑作業に色々挑戦してもらい、元気に過ごしてもらおうと思います。

インタビュー；ファンハウス　施設長　寺田　慎

家族からの手紙　～　様々な出会いの中で　今　～

両親は愛知県で暮らしていましたが、母の認知症が進み二人での暮らしが限界と判断しました。一緒に暮らすために地域包括支援センターに相談し「介護が始まる」という覚悟を決めて両親を迎え入れました。

愛知でも通っていたデイサービスを利用するために母も一緒に数カ所見学をしました。選択肢として「自分の出来ることはなるべく自分で」「好きなことを続けてもらいたい」でした。たどり着いたのが、アカシア会の認知症デイサービスふれあい倶楽部です。

クリニックふれあい早稲田の「物忘れ外来」とも出会いました。「物忘れ外来」ってなんと素敵な表現でしょう！認知症外来ではない表現が家族としても、ちょっと安心した事を覚えています。

災い(ﾜｻﾞﾜｲ)は続きました。頼りにしていた父が急性心不全で倒れ、母の介護が出来なくなりました。このままでは家族共倒れになる危険を感じてケアマネジャーと相談して入所施設を探しはじめました。数カ所のグループホームやサービス付き高齢者住宅を見学しました。その結果、同じアカシア会のグループホーム・アカシアの家にお願いしましたが、満室で入れません。その時に出会ったのが、開設まじかだったアカシアの家ファンハウスでした。

ファンハウスの何が良かったかというと、施錠しないということです。外出したら危ない、心配などあるでしょう。しかし、利用者の欲望をシャットアウトしないという姿勢が家族としてとても嬉しいと感じました。

１階の自分の部屋の窓から出て畑で野菜を勝手（？）に収穫して、玄関から戻ってくるという事をスタッフから聞きました。母の気持ちを一番にして寄り添い、無理強いしないで見守ってくれる、その状況をありのまま話してもらえる事が、私には本当にありがたいです。

母が、ひ孫にスタイ（よだれ掛け）をプレゼントしました。スタッフとネットで生地を選び買い、スタッフに協力してもらい可愛いスタイが完成しました。そのスタイを付けてひ孫が会いに来てくれたと母はとても喜んでいました。

本当にいつも母に寄り添って生活を支えてくださってありがとうございます。

これからも宜しくお願いします。

イメージ

次女　山口幸代

なんだかとても　寂しかった話

電車で隣に座った児童にひと声かけたら‥‥

東葛病院からの帰り、同じ駅から下校する私立小学校 1、2 年位の児童が三人、一緒に乗車しました。その中の女の子が私の隣に座り、あと二人の男の子は前に立ちました。

「あら！　重そうなランドセルね。教科書が沢山あるのね。」と私が女の子に話しかけ、少し会話が進みかけていたところ、なんと！　立っていた男の子が、その女の子と、もう一人の男の子をぐいぐい引っ張って、素早くずっと離れた席の方に逃げるように移動しました。

私はびっくりしました。そして、しばらくして気がつきました。「私は、怪しいお婆さんと勘違いされて、子供達から避けられたのだ」と。きっと「知らない人とは話してはいけない！」と、先生や親御さんからきつく言われているのだと思いますが、孫のような可愛い子供達との車内での束の間の会話さえ許されないなんて…

ご時世とは言え、親御さん達のしっかりした躾(ｼﾂｹ)に感心するとともに、何だかとても寂しい気持ちにもなりました。

そして、のんびりしていた、大昔のことがとても懐かしく思われました。

＜塩澤美智子さん＞（大場先生のお姉さん）

◈ 今回は、「ちょっといい話」ではありませんでした。

【編集あれや　これや】

「今まで体験したことがない」という表現が連日のように聞かれます。「今まで体験したことがない猛暑」「今まで体験したことがない警報級の豪雨」など。今年の流行語大賞にノミネートされるんじゃないかと。

相談支援センターの自転車のタイヤが暑さでめくりあがっていました。休養と水分補給を十分とり「今まで体験したことがない」を乗り越えましょう。

荻野矩子さんの娘・山口幸代さんから頂いたお手紙〝ほっこり〟しました。ありがとうございます。（な）